



社会福祉法人 成寿会
理事長

奥村 俊樹

学生時代に医学を修め、医学博士として先代である父親を支えつつ
地域貢献のための医療・看護・介護・保育事業を展開してきた奥村理事長。
現職に就任後は、さらに事業を拡大し、同業他社に先駆けて新規事業にも取り組んでいる。
溢れるバイタリティと軽やかなフットワークで常にはるか未来を見据え、
一人より一步先、二歩先を突き進む。その原動力となっているのは
“世代を問わず、地域の人々の暮らしを支えたい”という熱い想いだ。

**「常に一步先、二歩先を見つめ、
新たなモデルケースを構築してきました」**

A 介護老人保健施設『成寿苑』外観 B 企業主導型保育施設『Kids terrace at seiju』外観
C 『Kids terrace at seiju』 エントランス D E 『Kids terrace at seiju』に併設されたカフェスペース



全ての世代にサービスを提供する 社会福祉法人を目指して事業を拡大

介護老人保健施設『成寿苑』の運営をはじめ、訪問リハビリや居宅介護、訪問介護など様々な総合的福祉事業を展開している『成寿会』。2017年には新たに企業主導型保育施設『Kids terrace at seiju』もオープンし、地域の関連機関と連携を図りながら、包括的・機能的で質の高い医療・看護・介護・保育サービスを提供している。本日はタレントの黒田アーサー氏が、二代目・奥村理事長にインタビューを行った。



黒田 アーサー

(タレント)

現職に就任されてから、様々なことにチャレンジされ、事業規模を拡大してこられた奥村理事長。2020年にはさらに新しい事業にも着手されるとのことで楽しみです。地域の皆さんや、先代で今は亡きお父様のためにもぜひこれからも、地域に欠かせない法人としてより良いサービスを続けていって下さいね。

——奥村理事長の歩みから伺います。

地元の中学校から『秋田県立秋田高等学校』を卒業後、『明治大学』に進学しました。大学卒業後は『日本体育大学大学院』の前期博士課程、『弘前大学大学院』の後期博士課程を経て医局で、医学博士を取得したんです。また、中学生のころから柔道を始めて大学時代には日本一に、『日本体育大学大学院』では実業団とプロ契約を結んでいたこともありました。

——まさに文武両道ですね！ その後、どのような経緯でこちらを？

元々、父が政治家として活動しており、ある時、父から「社会福祉法人を立ち上げて老健施設を運営することで、さらに地域に貢献していきたいから帰ってきなさい」と連絡があったんです。当時、私は前期博士課程を修了するところで、医学的なことは私でないといけないから力を貸してほしいとのことでした。私も地域貢献には賛成でしたし、両親に恩返しをしたい気持ちも

社会福祉法人 成寿会 介護老人保健施設 成寿苑

秋田県大館市釈迦内字狼穴 79 番地 URL : <http://seijuen.or.jp>

Kids terrace at seiju

(企業主導型保育施設、病児保育)

秋田県大館市釈迦内字狼穴 89 番地

URL : <http://seijuen.or.jp/kidsterrace>

▶▶▶ 保育施設で子育て中の職員を応援！

▼『成寿会』が運営する保育施設『Kids terrace at seiju』は、カフェを併設したお洒落な施設で、職員の子どもが利用する「従業員枠」と、地域の子どもが利用する「地域枠」を設けた企業主導型保育施設だ。「職員のお子さんについては、保育料も食事も、病児保育も全て無料。グループとして職員を大切に、気持ち良く仕事をいただける環境づくりを進めていますが、保育施設もその一環」と奥村理事長。

▼また、同法人では高齢の職員も多く、祖父母としてお孫さんを預けているケースもある。快適に働ける環境が、施設や事業所のより良いサービスの源にもなっていることは間違いない。



理事長・医学博士・ph.D

奥村 俊樹

あったので、事業の立ち上げに参加することに。2005年に父が理事長、私が常任理事として『成寿会』を発足し、その1年後に『成寿苑』の建設が完了。最初は80床からスタートしました。

——お父様から現職を引き継がれたのはお幾つの時だったのですか。

35歳の時でした。私が33歳の時に先代が食道癌であることが判明し、2年間の闘病生活を経て他界しましてね……。その後、老健施設を100床まで増床したり、利用者さんのご自宅を訪問してリハビリのお手伝いをする訪問リハビリの事業所を開設したりと徐々に事業を拡大してきたんです。そして2017年にはカフェを併設した企業主導型保育施設『Kids terrace at seiju』も立ち上げ、病児保育も行っています。

——「地域に貢献したい」という先代の遺志をしっかりと引き継いで、地域の人々が安心して暮らせる事業を展開してこられたのですか。

また、今は2020年の着工を目指して、大きな複合施設を立ち上げる計画もあり、市の認可もいただき鋭意準備している最中なんです。

——ほう。どんな施設になるのでしょうか。

特別養護老人ホームと指定運動療法施設、クリニック、レストラン、サ高住（ホテル事業）などの複合施設です。指定運動療法施設というのは、厚生労働省が「国

民の健康づくりを推進する上で適切な内容」と認可した施設のこと、医療費控除が受けられるフィットネススポーツクラブです。

——ほう。初めて耳にしました。とてもスケールが大きいですが、そうしたアイデアはどこから生まれるのでしょうか。

大学時代の友人の多くが様々な業界で現在、活躍していて、仕事で東京に行く際には皆で会って話をするんです。その中で情報をキャッチし、自分でも調べて事業に反映させるようにしています。かつての社会福祉法人は地域の名士がゆったりと構えて運営しているイメージですが、今はそれでは通用しません。民間企業と同じぐらいのフットワークで、時代に即した展開をしていくことが重要だと考えています。

——そうしてアンテナを張り、行動に移されていると。

ええ。今年の4月には海外人材の受け入れ拡大のための出入国管理法改正があり、それを受けて4月の第2週にはベトナムに飛びました。そして新規事業のために現地で外国人技能実習生を5名採用してきたんです。これからは徐々に実習生を増やし、ゆくゆくは海外でも施設を立ち上げたいと考えているんですよ。私共は医療と福祉・保育のスペシャリスト集団ですから、この環境の中で技術を習得してもらい、それぞれに自国に持ち

帰ってもらう。私たちが現地で事業を立ち上げる時には、彼らが即戦力となってくれるでしょう。そうした中・長期ビジョン計画で人材を採用しており、今後も継続していく予定です。

——民間企業以上のフットワークですね！

県内でもこうした動きをしている法人はないので、モデルケースになれば嬉しいですね。保育施設についても企業主導型保育施設は県内先駆けで行いました。こちらモデルケースとして各県から施設見学に来ていただいています。

——今後がますます楽しみです。お話は尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。

直近の目標は、2020年から始める新規事業を成功させること。そして、この地域で『社会福祉法人 成寿会』がなくてはならない存在となるように努力していきたいです。そのためには、全ての世代をカバーできるサービスを提供していく必要があります。社会福祉法人と言えば、高齢者や障がい者を対象とした事業や保育関連の事業をイメージする方がほとんどだと思います。私共でもその範囲で事業展開を行ってききましたが、新規事業では指定運動療法施設をはじめクリニック、レストラン、サ高住（ホテル事業）運営なども通じ、全ての世代の方々にサービスを提供していこうと考えています。

(2019年6月取材)